

### 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組に関すること

2022年度より「教職課程自己点検評価」を行い、教職課程アドバイザーより指導・助言を受け学科協議会で全教員で共有した。本学の教育目的と共に教職課程の目標及び3ポリシー及び学習成果を教員養成に特化して別立てとする検討を行っている。教職に関する事務体制の充実が課題となっている。

卒業や免許取得に必要な単位数の科目の履修を行う。ゼミ活動ではテーマに沿った研究や学生による主体的・対話的な学びが展開されている。地域での体験活動として阿倍野区主催の地域活動の他、学内の「絵本の部屋・こひつじルーム」子育て支援活動への協力や子どものキャンプ活動などのボランティア参加などが積極的になされている。

授業以外の個々の取り組みでは、「音楽コンテスト」「英語スピーチコンテスト」「大学祭ゼミ発表」などの学校行事への積極的な参加によって個々の実践能力が発揮される機会となる。また幼稚園、保育所、福祉関係の施設などへの自主的なボランティア活動を推奨している。これらの活動から、豊かな学生生活と、子どもや異世代との関わりによる、地域での保育実践力の向上が目指される。さらに附属保育園、認定こども園との連携による学生の観察実習や壁面装飾作成協力、地域小学校の登校時交通安全ボランティア、子どもを対象とした教員の研究交流等の関係が良好である。

今年度は希望者を対象に、海外ヨーロッパ研修（ドイツ）、オーストラリア研修、タイスタディツアー、カンボジア研修を行う。海外の幼稚園教育や福祉活動の視察、参加によって、海外の教職への知見を深める。

学生は各自の学習成果は科目成績、GPAの把握、ポートフォリオによる可視化や振り返りによって自己評価を行う仕組みを持っている。教員はポートフォリオを通して、学生の自己評価を把握すると共に、担当科目の教育研究活動等の状況について、自己点検評価を行い、次の指導目標や計画につなげる取り組みを行う。そのほか「就職先アンケート」「卒業生アンケート」「短期大学生調査」「免許・資格取得状況」「就職状況」などを通して定性的・定量的に教育成果の把握を行い、PDCAサイクルを回すことで教育の質の向上に努めている。